

第1033回教育委員会

平成28年11月24日
県庁舎教育委員室

1 開 会 午後1時

2 会議録署名委員の指名

3 会期の決定

4 報 告

- (1) 小学校低学年におけるコミュニケーション指導について (義務教育課)
- (2) 平成29年度全国高等学校総合体育大会プレイベントについて
(全国高校総体推進課)

5 議 題

- 議第1号 山形県文化財保護条例第4条第1項の規定による山形県指定有形文化財の指定について (文化財・生涯学習課)
- 議第2号 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づく意見について
 - 議第2号の1 平成28年度山形県一般会計補正予算(第4号)のうち教育委員会に関する事務に係る部分 (総務課)
 - 議第2号の2 山形県職員等の給与に関する条例等の一部を改正する条例案 (総務課)
 - 議第2号の3 山形県特別職の職員の給与等の支給に関する条例の一部を改正する条例案 (総務課)
 - 議第2号の4 山形県職員等に対する退職手当支給条例の一部を改正する条例案 (総務課)
 - 議第2号の5 職員の勤務時間に関する条例等の一部を改正する条例案 (総務課)

6 閉 会

小学校低学年におけるコミュニケーション指導について

1. 低学年で育む「自主性」と「思いやり」



上の図は、幼児期から小・中学校の時期の教育を通してめざしていきたい子どもの姿を示したものである。自立した「協同的な学び」で、仲間と共に考え合い、表現し合いながら学習している。

ユキエが自分の解き方を説明すると、サトシが「わからない」と質問する。タケシもユキエの考えを説明するがサトシは理解できない。カナコはそんな3人のやりとりを真剣に聞いている。

ユキエとタケシとカナコの3人はサトシが理解できるように別の解き方を考え、絵や図を書いて丁寧に説明した。

説明を聞いて、「やっと、わかったよ。ありがとう。」とサトシが言った。

3人はとても喜んだ。そして、自分の学びを素直に振り返ってカナコは、「私もよくわかってなかったみたい。サトシ君に感謝だわ。」

「サトシ君が、『どうして?』と質問してくれたから、みんなでいろんな解き方を考えることができてよかった。」と、タケシは、みんなで知恵を出し合ったこと、そして、自分の解き方とは違う別の解き方を考えることができたことに満足している。

ここには、自主的に学び合う姿がある。自分の考えを説明できる子、「わからない」と言える子など自分の思いを素直に表現できる姿がある。そして、何よりも、相手のことをよく理解し、「思いやり」の気持ちで支え合う姿がある。この4人は、本時の課題に対する理解度は違っているが、一人一人自己肯定感を持って授業を終えている。このような子どもたちは良好な人間関係の中で安心・安定が保障され、充実した学習を創ることができる。

このような協同的な学びの中に見える「自主性」や「思いやり」は、簡単に育つものではなく、幼児期から小中学校の時期、一貫して育てていくことにより、子どもの成長と共に高まっていくと考えている。

山形県では、『幼児共育アクションプログラム』の中で、幼児期において、「遊び」を大切にしながら、主に「自主性」を育てながら、人やモノとのかかわりの中で社会性として大切な「思いやり」を育てていく教育を推進していきたいと考えている。そして、「自主性」と「思いやり」は、幼児であっても、児童・生徒・学生であっても、社会人としての大人であってもすべての人間の生き方の基盤であり、幼保小一貫して育て、成長とともに高めていきたいと考えている。

ここでいう「**自主性**」とは、以下のものを含むものである。

- ① 自ら考え、行動（表現）すること（自発）
- ② 独り立ちすること（自立）
- ③ 自分自身で立てた規範に従って行動すること（自律）

特に幼児期には「自発性」を大切にしたい。好奇心が旺盛で、目的意識をもつと自発的に行動する時期である。集団生活のルールや友とのかかわりより、自分の思いが優先され、行動する。しかし、友とのかかわりで好ましくない言動があれば「トラブル」が起き、そこで、トラブルを解決していく術を体験的に学んでいくし、善悪の判断ができなかった場合は、「それでいいのかな？」と諭され、どうするべきであったかを子どもなりに考える。考えられないとしても、好ましい行動についてしっかりと教えられる。

小学校では、このような自発性をさらに高めながらも、目の前の困難を克服していくことのできる自立した子どもを育てていきたい。そして、いろいろな人やモノ、社会とのかかわりの中で、自分自身で立てる規範に従って行動できる人間に成長していくものと考えている。

「**思いやり**」とは、

- ① 心を配ること
 - ② 想像・推察すること
 - ③ 思慮・分別があること
- の3つを考えている。

右に示したものは、相手の思いを察した行動で、相手をよりいかにすることができた事例である。

A男に「心を配り」、A男の内面を「想像・推察」し、学級の中でA男をどう支えていくか考えた「思慮・分別」のあるB子の行動は、幼児期からの「思いやり」を育む一貫した教育を通して育つものである。

「遊び」の重要性を幼児教育機関等と小学校が共通理解し、発達段階に応じた適切な教育を施すことで、「自主性」や「思いやり」を大切に育てていきたいものである。そのためにも、幼児教育機関等と小学校が今まで以上にお互いを理解し合い、学びのつながりの中でそれぞれの役割を見直していく必要がある。

友の思いを察し(想像)、そのよさを引き出せる子ども

○ある学校における5年1組の「朝のスピーチ」の時のことである。その日は、A男が話題を提供し、みんなで話し合いをするようになっていた。

○話題を考えてこなかったA男はそのことすらも言えず、緊張したまま黒板の前に立ち、黙り込んでしまった。

○そんなA男を察してか特に仲良しでもないB子が、「A君さ、今朝、校舎に入る前に1年生の男の子をおんぶして遊んでいたでしょ。そのこと聞きたいな。どうして、いつも、1年生と遊んでいるの？」と聞いた。

○A男はびっくりしたようであるが、B子の質問に答えるようにたどたどしく、

- ・ その男の子が友達と一緒に遊べないこと
- ・ いつも自分にいたずらすること
- ・ 遊んであげるととても喜ぶこと

等の話をした。

○すると、A男の「やさしさ」に共感した学級の友達は、次々に質問した。自分の経験や、1年生と遊ぶのはいやなこと等、正直に語る子どももいた。



2. 「共通の目的による協働的な活動」を大切にした5歳児後期の教育

(1) 協同性が活動の質を高める～5歳児後期の「遊び」と学びの芽～

幼児期前半は、「同じ場所に一緒にいること」や「同じことをする」ことに大きな意味がある。次第に仲間関係ができてくると、自分の思いやこだわりを積極的に他の子どもに言葉や身体で伝えようとする。うまく相手に伝わらなかったり、相手のイメージを押しつけられたりして嫌な思いもするが、それでもなんとか自分の世界を相手と共有したいと思い、相手に賛同したり、折り合いをつけたりすることを学んでいく。そして、これが自己抑制をしていくことにつながっていくのである。

そして、幼児期後半になると、子どもたちは、一つの目的を共有し、それを実現しようと、協同して遊びや作業を進めていこうとするようになる。

(2) 人との「かかわり」から学びの芽が育まれる

遊びにおける学びのプロセスをいくつかの事例から考えてみたい。

＜事例1＞ 「どうしてこっちに水がたまると？」(3歳児 9月)

砂遊びをしていた5人の男児たち。思い思いに穴を掘ったり、山を作ったりしていた。そこへ、1人の男児がペットボトルに組んできた水を砂山の頂上から流した。「川だ。」と大喜びの男児たちは「もっと水をかけよう。」と言って、他の2人がペットボトルやじょうろを手にして水を汲みに行く。何度か水をかけているうちに山は崩れたが、ある一定の方向に水が流れて掘った穴に少したまった。すると「こっちの方(穴)にばかり水がたまった！」と1人の男児が言い出す。「もっと水を持ってこよう。」と言ってまた何人か水を汲んできて、山があったところから水を流す。「どうしてこっちの方にばかり水が行くのかな？」との声。すると「こっちの穴のほうがそっち(山のあったところ)より低いからじゃないのかな。」とある男児の返答。「へえー、低いからなんだ。」と周囲の男児たち。その後、5人が交代で水を汲みに行き、何度もその水の流れ方をじっと見つめる姿が見られた。

子どもの情動的な内面の変容を中心に、人とのかかわりという視点からこの事例の学びを見てみると、次のようなプロセスが見えてくる。

- | |
|---|
| どうして一定の方向にばかり水が動くのかと友達の疑問に <u>「心が動く」</u> |
| → 再び水を流して 友達と <u>「やってみる」</u> |
| → 高い所から低い所に水は自然に動くことを 友達と <u>「『なるほど』とわかる」</u> |
| → 交代で何度も水を汲みに行き流してみることを 友達と一緒に <u>「繰り返す」</u> |
| → 高いところから低い方へと水が動くことを <u>「『やっぱり』と納得する」</u> |
| → 次の生活や遊びに生かしていく |

この〈事例1〉のように、集団生活において他者の存在が子どもの学びに大きく影響し、人とのかかわりにおいて学ぶことは非常に重要である。

(3) 思いやりの心を育む

① 思いやりを受ける体験が思いやりの芽を育む

子どもの中に思いやりの心を育てるためには、子どもを取り巻く環境が大切である。最も身近にいる家族、そして保育者が思いやりのある人間であることが最高の環境なのだ。そして他の人から思いやりを受けたという経験があればあるほど、社会のルールをそれほど厳しく教えなくとも、子どもは自然に守ることができるようになるものである。これは、ある保育所での思いやりの芽が育まれたひとこまである。

② 喧嘩しても仲直りできる子どもに

自己中心的で、自分の思いを上手に言葉で表現できない子どもは、日常的にトラブルを起こしがちだが、大切なことは、「喧嘩しても仲直りができるか」ということである。子ども相互の間でトラブルを解決していく体験の積み重ねが、思いやりの芽を育むのである。次に紹介するのは、相手の思いを察した温かな一言でトラブルが解決した事例である。

<事例2> 「じゃあ僕は、コンテナケースをもって来るよ」(5歳児 10月)

自分たちの背丈ほどもある砂山を作っていた男児たちが、「この山の向こう側をダムにしよう。」「この山にトンネルを掘ってそのダムに水を流そうよ。」などとイメージをふくらませ、塩ビ管を用いてトンネルを作った。すると、「もっと高いところから水を流してみない?」と女児が提案をする。「じゃあ僕は、コンテナケースを持って来るよ。」「私は、雨樋を持って来るよ。」「大きいペットボトルもいるよね。」と、必要なものを分担して持ってくる。次々に人が加わり、10人で大がかりな装置を作る。ようやく完成。「じゃあ水を流すよ。」とリーダー格の子どもが声をかけると、「OK!」と他の子どもたちが応答する。ダムに水が流れ出すと、みんなから拍手が起きた。

この遊びは、これまで体験してきた様々な遊び方を応用し、なおかつ、お互いに言葉を掛け合いながら、自分の役割を考えて遊びを展開している。5歳児になると、保育者の直接的な援助がなくても、自分たちで工夫しながら協同した遊びを展開していくようになる。



また、この時期の子どもは、自分の思いどおりに振る舞うのではなく、仲間と一緒にルールに従って遊ぶことで、これまでにはない遊びの楽しさと興奮を味わえることを知らず知らずのうちに理解し始める。そして、次第に自分の思いやこだわりを伝えるだけでなく、仲間とやりとりをしながら、新しいアイデアや遊びのルールを生み出したり、それをお互いに受け入れたりして遊びを発展させていく面白さを経験していく。また、遊びに限らず他の子どものイスを準備したり、他の子どもが育てている植物に水を与えたりなど、生活面においても協同性が育ってくる。相手に感謝されることを自発的に行うのは、自分と他者とがお互いに気持ちよく過ごせる関係を求めているからである。

このようにして、幼児期前半の協同性の芽を育むことで、幼児期後半の協同性が開花し、その協同性の中で、子ども一人一人の自主性と思いやりが育まれていくのである。それゆえ、5歳児の後期は、この協同性を生かした保育を展開することが可能となり、「一つの目的」を持って活動に取り組む保育も可能となるのである。そこでは、子どものこだわりを保育者が把握したり理解したりしながら、そのこだわりを深めていけるような知的な刺激を与え、なおかつ、子ども同士でその刺激を協同して生かしていけるように援助することが大切になってくる。

3. 小学校第1学年の教育

① 生活科を核にした合科的な単元を取り入れたカリキュラムづくり

児童の発達の特性和各教科等の学習内容から、入学直後は合科的な指導などを展開することが適切である。例えば、4月の最初の単元では、学校を探検する生活科の学習活動を中核として、国語科、音楽科、図画工作科などの内容を合科的に扱い大きな単元を構成することが考えられる。こうした単元では、児童が自らの思いや願いの実現に向けた活動を、ゆったりとした時間の中で進めていくことが可能となる。大単元から徐々に各教科に分化していくスタートカリキュラムの編成なども効果的である。

このように総合的に学ぶ幼児教育等の成果を小学校教育に生かすことが、小1プロブレムなどの問題を解決し、学校生活への適応を進めることになるものと期待される。入学当初の生活科を核とした合科的な指導は、児童に「明日も学校が楽しみ！」という意欲をかき立て、幼児教育等から小学校教育への円滑な接続をもたらしてくれる。

◇ 生活科を核にした合科的な単元構想を考える。

幼児教育等とのつながりの中で小学校教育をスタートさせるためには、生活科を核にした合科的な学習をどのように構想し実施していくかが大切である。テーマによって構成されること、従来の生活科の学習内容に各教科の内容が統合され、よりダイナミックな学習活動が展開されること等がポイントとなる。このような単元構想は、幼

児教育等の理念を受け継ぐものとなっており、この時期の子どもたちにとって、自然に小学校における学習に移行することが可能となる。

◇ 小学校での学習や生活に適応していくための「30分授業」を計画する。

小学校での学習や生活に適応していくために、次の3つの授業の計画を立てる。

- 適応授業Ⅰ : 「読む・書く・話す・数える」等の学習
- 適応授業Ⅱ : 「学校生活の仕方等」の学習
- 適応授業Ⅲ : 「仲間づくり」の学習

友達との良好な関係を築き、安心・安定した気持ちで生活を送ることができるようにする。1年生の子どもや親の最大の関心事は「友達ができ、仲良く遊ぶことができるか」とうことである。「集団遊び」等のグループ体験を中心にした学習を意図的に計画し、あのままの自分を受け入れ、そして表現し、友達との信頼関係を深めていくことが目的になる。また、週に1回程度の学習になるが、この30分の学習が休み時間や家庭・地域で友達同士の遊びに活かされていくようにしていくことが大切である。

(適応学習Ⅲの事例 30分×9回)

好ましい人間関係をつくる活動

	あいさつ・自己紹介（「おはようございます 私の名前は〇〇〇〇です」）
	進化じゃんけん（ミミズ→カエル→ゴリラ→人間）
	質問じゃんけん①（勝った人が相手に質問し、負けた人は答える）
	2年生と一緒に校歌を歌おう
	そうだねゲーム（2人組で：1人目「あれは黒板だよ」→2人目「そうだよ」と言う）
	質問じゃんけん②（勝った人が相手に質問し、負けた人は答える）
	スピーカー（4人が、ライオンの各1文字を一斉に言い、相手チームが当てる）
	新聞紙1枚の空飛ぶジュウタン（新聞紙1枚に何人まで乗れるか競う）
	世界に1つのシンボルマーク（班のシンボルマークを考えて発表し合う）

山形県「幼保小連携スタートプログラム」より抜粋

1 小学校における発達段階

(1) 小学校低学年

【発達上の特性】

- 身体的・運動的な機能の発達
- 言葉と認識の力、時間と空間を超えた見通し。
- 幼児期の自己中心性も残しつつ他人の立場を認めたり理解したりする能力も発達。
- 生活経験を重ね、集団の一員との意識をもつようになる。
- 役割を分担して行動したりするようになる。
- してよいこと、悪いことについての理解はできるようになる。
判断は大人に依存しがち

【課題】

- ・学校における集団生活への適応
- ・善悪判断に関する基本的な尺度・枠組みの確立
- ・自然や生命に対する感性等の涵養

※ 現代の特徴として指摘される現象又は問題点

- ・子どもが基本的なしつけを受けないままに入学し、集団生活のスタート時点で問題が顕在化するケースが多くなっている
(いわゆる「小1プロブレム」)。
- ・社会規範が流動化し、良いこと・悪いことについて、親や教師、地域の大人が自信を持って指導できなくなっている
(叱れない大人、迎合的な親)

(2) 小学校高学年

【発達上の特性】

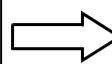
- 距離をとって分析、自分のことも客観的に捉えられる。
- 身体的にも知的・社会的にも成長し、有能感(又は、これに失敗し劣等感)を持つ。
- 集団の規則や遊びのきまりの意義を理解
- 排他的な遊び仲間同士で活動するギャングエイジを迎え、学校(学級)に、幾つかの閉鎖的な仲間集団ができる。
- 集団間の争いや、所属する集団への付和雷同的な行動
- 道徳的判断については行為の結果とともに行為の動機をも十分に考慮できるようになる。

【課題】

- ・抽象的な思考様式への適応、他者の視点への理解力の発達
- ・活動能力の広がりに応じた現実世界への好奇心(興味・関心、意欲)
- ・対人関係能力、社会的知識・技能の向上
(敵対する者も含めた同年代の者とのつきあいを学ぶ)

※ 現代の特徴として指摘される現象又は問題点

- ・メディアを通じた疑似体験・間接体験が多くを占め、人・モノ・実社会に直に触れる直接体験の機会が減少している。
- ・ギャングエイジを経ないまま成長する子どもが増えている。
- ・自尊感情を持ってないでいる子どもが数多くいる。



2 実際の指導場面で大切にしたいこと

【低学年で大切にしたいこと】

- 「人として行ってはならないこと」についての知識と感性の涵養
- 集団や社会のルールを守る態度・善悪の判断や規範意識の基礎の形成
- 自然や美しいものに感動する心などの育成(情操の涵養)
- 善悪の判断は大人に依存傾向 → 主体的に判断できる力の芽
→「相手のきもちになる」「自分がいやなことは他の子にもしない」
「謝る」「ありがとう」をきちんと言える。

【高学年で大切にしたいこと】

- 抽象的な思考の次元への適応や他者の視点に対する理解
- 自己肯定感の育成
- 自他の尊重の意識や他者への思いやりなどの涵養
- 集団における役割の自覚や主体的な責任意識の育成
- 体験活動の実施など実社会への興味・関心を持つきっかけづくり
- ギャングエイジに友人関係の失敗やトラブルをたっぷり経験
→解決を焦らず、しっかりと話し合わせる、気持ちを互いに理解できる関わり、友達の弱さや失敗を許せる心

各発達段階における子どもの成育をめぐる課題等について(文科省資料抜粋)



はばたけ世界へ 南東北総体 2017

イベント

入場
無料



2016年リオデジャネイロオリンピック
4×100mリレー銀メダリスト

ケンブリッジ飛鳥選手 ゲストトーク

14:00~
申込不要

インターハイは高校3年生の時に4×100mリレーで優勝した非常に思い出深い大会です。この大会をきっかけに日本代表を本格的に目指すようになりました。当日は、参加者の皆さまとリオ五輪や高校時代のお話などできればと思っています。



ケンブリッジ飛鳥選手

2016年リオデジャネイロオリンピック4×100mリレー銀メダリスト。ジャマイカ生まれ大阪育ちの23歳。ジャマイカ人の父と日本人の母を持つ。高校2年時に100mで10秒台に突入。高校3年時のインターハイの4×100mリレーで高校日本一、日本ジュニア選手権200mでジュニア日本一に輝く。また、同年行われた日本選手権の4×100mリレーで40秒02の高校記録(当時)を樹立。

ステージイベントスケジュール

10:00	競技種目紹介(山形県開催競技)	山形県高校生活動推進委員会
プロローグ	ハンドベル演奏	山形学院高校
	吹奏楽演奏	山形中央高校
	ファッションショー	山本学園高校
11:00頃	吹奏楽演奏	山形中央高校
	新庄囃子の演奏	新庄神室産業高校
	マンドリン演奏	山形東高校
	ヒップホップダンス	天童高校
12:00頃	競技種目紹介(宮城県開催競技)	宮城県高校生活動推進委員会
	書道パフォーマンス	寒河江高校
	和太鼓演奏	山形明正高校
	12:45頃	カウントダウンボード除幕
セレモニー	友情の花の種の伝達 大会開催記念ダリア命名報告	中国5県・南東北3県高校生
	合唱	山形西高校
	競技種目紹介(福島県開催競技)	福島県高校生活動推進委員会
	マーチング	鶴岡東高校
	ゲストトーク	ケンブリッジ飛鳥選手
14:30頃	高校生活動発表	山形県高校生活動推進委員会
エピローグ	チアダンス	山形北高校
	応援団による南高伝統の応援(激励応援)	山形南高校

日時

2016年 **12月11日** 日

10:00~15:00

場所

山形国際交流プラザ
山形ビッグウイング

お問い合わせ先
平成29年度全国高等学校総合体育大会山形県実行委員会事務局
〒990-8570 山形市松波二丁目8番1号 山形県庁16階
山形県教育庁全国高校総体推進課内 電話023-630-2385



公式ホームページ



公式facebook

※時間は、イベント当日の状況により前後する場合があります。

はばたけ世界へ 南東北総体 2017

イベント 入場無料

日時 2016年 12月11日(日) 10:00~15:00

場所 山形国際交流プラザ 山形ビッグウイング

ステージパフォーマンス

学校名	内容
山形東高校	マンドリン演奏
山形南高校	応援団による南高伝統の応援(激励応援)
山形西高校	合唱
山形北高校	チアダンス
山形中央高校	吹奏楽演奏
天童高校	ヒップホップダンス
寒河江高校	書道パフォーマンス
山形学院高校	ハンドベル演奏
山形明正高校	和太鼓演奏
山本学園高校	ファッションショー
新庄神室産業高校	新庄囃子の演奏
鶴岡東高校	マーチング

出展ブース

販売・飲食



出展ブース

展示・体験



出展者名	内容	買う	食べる	体験	無料
上山明新館高校	缶詰などの販売、学校紹介	●			
谷地高校	冷たい肉そばの販売		●		
左沢高校	りんご・りんごジュース・ジャムなどの販売	●			
山形市立商業高校	どんどん焼きの販売		●		
山本学園高校	衣創科が作成した手作り小物の販売、学校紹介	●			
山形電波工業高校	プリンター台の販売	●			
村山産業高校	農作物の販売、学校紹介	●			
新庄北高校(定時制)	たこ焼きの販売		●		
新庄南高校	立礼式での抹茶のふるまい、エコキャップで作ったパネル展示		●		●
新庄神室産業高校	ジャムなどの農産加工品の販売、きのこ料理コンクール全国大会最優秀賞「きのこたっぷり山形のだし」のふるまい	●	●		●
米沢商業高校	うごぎチョコッッセ・SANUSチョコレートの販売	●			
置賜農業高校	農作物・農産加工品の販売	●			
南陽高校	南陽産材料で作る「豆腐入りカレーうどん」の販売		●		
高島高校	クッキーのふるまい		●		●
小国高校	たかきびうどんの販売、うごぎパウダー入りチョコのふるまい、おぐまんクリアファイルの無料配布		●		●
加茂水産高校	サンマ味付け缶詰の販売	●			
庄内農業高校	農作物・手作りうどん(生麺)の販売	●			
天真学園高校	角煮ラーメンの販売、イカ飯のふるまい		●		●
山形市	B級グルメ「芋煮カレーうどん」の販売		●		
新庄市	新庄名物の販売	●			

出展者名	内容	買う	食べる	体験	無料
山形南高校	理数科の研究内容紹介と実演				
山形工業高校	学校紹介				
寒河江工業高校	3Dプリンタの実演、3Dプリンタで作った製作物の無料配布				●
日本大学山形高校	学校紹介				
山形明正高校	エコラン用自動車・メカトロアイデアコンテストロボットの展示、学校紹介				
山形電波工業高校	投てき運搬車展示、工業科各コース紹介、LEDライト製作体験			●	
東桜学館高校	切り絵ボード展示				
鶴岡北高校	書を取り入れたスタンドの展示				
鶴岡工業高等専門学校	3Dプリンタの実演、3Dプリンタで作った製作物の無料配布				●
酒田西高校	学校紹介				
酒田光陵高校	ペットボトルキャップボード・カウントダウンボードの展示				
酒田南高校	学校紹介				
県内各特別支援学校	学校紹介、手作り品の展示				
南東北3県高校生活動推進委員会	これまでの高校生活動の記録(山形・宮城・福島)				
天童市	ラ・フランス・りんごの重量あてクイズ			●	
長井市	けん玉体験			●	
競技会場市町	観光PR(山形市、上市市、天童市、寒河江市、西川町、尾花沢市、新庄市、米沢市、南陽市、川西町、長井市、白鷹町、鶴岡市、酒田市)				
大塚製薬(株)	熱中症啓発PR(2016中国総体特別協賛社)				
(株)カンコー学生服	企業PR((公財)全国高等学校体育連盟スポンサー)				
(株)トヨタレンタリース山形	企業PR(山形県実行委員会スポンサー)				
(株)カーサービス山形	企業PR(山形県高校生活動スポンサー)				
(株)置環	企業PR(山形県高校生活動スポンサー)				
(株)マツキ	企業PR(山形県高校生活動スポンサー)				
積水ハウス(株)山形支店	企業PR(山形県高校生活動スポンサー)				